

伊勢・三河湾貧酸素情報(H29-8号)

平成29年8月17日
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成29年8月10日に伊勢湾、8月15日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

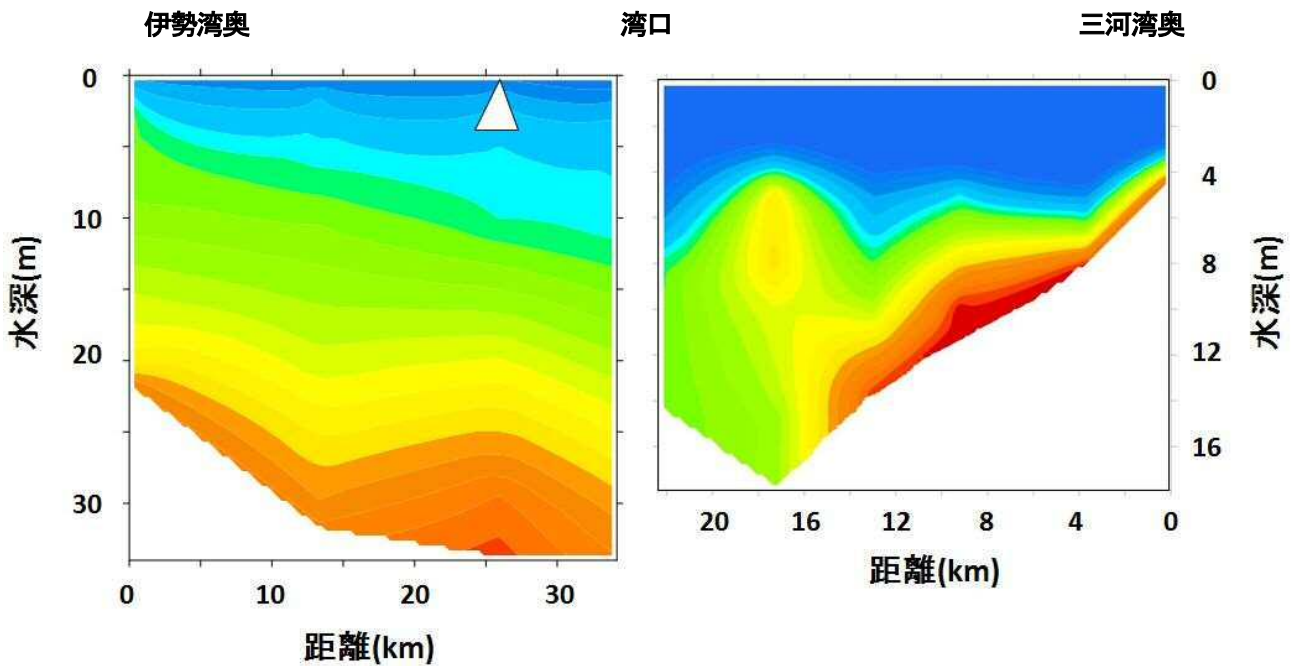
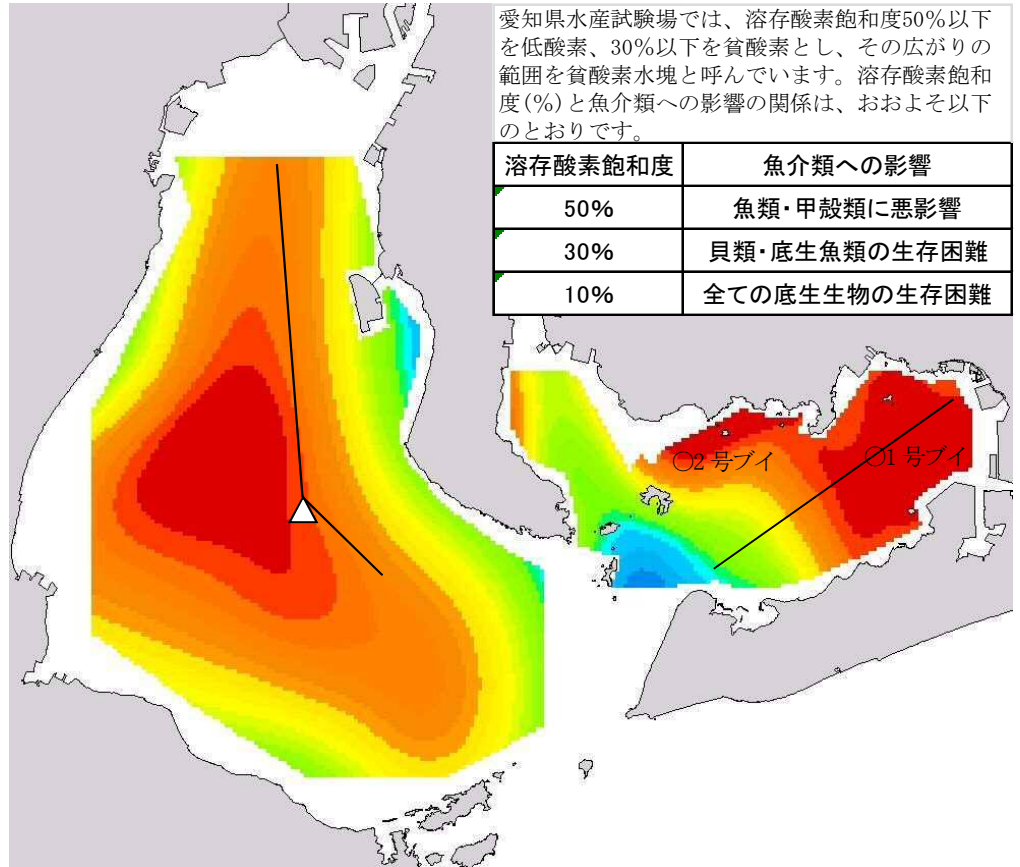


図1 伊勢湾(8月10日)・三河湾(8月15日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(三重県「あさま」、愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

8月10日の調査結果を図1及び表1に示しました。前回調査(8月1、2、3日)に比べて、湾中央でみられた溶存酸素飽和度10%以下の範囲は、8月7日から8日にかけて接近した台風第5号の影響により縮小しました(図1)。

今後は、表層と底層の水温及び塩分の差が大きいことから、海水の上下混合が起こりにくいため、貧酸素水塊は拡大すると考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	26.5~30.3	21.0~29.5
底層	18.8~24.7	31.0~33.8

三河湾

8月15日の調査結果を図1及び表2に示しました。前回調査(8月2、3日)に比べて、渥美湾で溶存酸素飽和度10%以下の範囲がやや縮小しましたが、湾奥部では依然として溶存酸素飽和度が低くなっています。知多湾の一部では前回確認された貧酸素水塊の規模が縮小していました(図1)。

自動観測1号ブイ(蒲郡沖)と2号ブイ(吉良沖)のデータでは、8月7日から8日にかけて接近した台風第5号の影響により、8月8日から10日にかけて海水の上下混合がみられ、貧酸素水塊は一時的に解消しました。その後底層では、徐々に貧酸素水塊の発達を観測されています(図2)。

今後は、表層と底層の水温及び塩分の差が大きいことから、海水の上下混合が起こりにくいため、貧酸素水塊は継続すると考えられます。

また、湾奥部では岸寄りに貧酸素水塊があり、東寄りや北寄りの風が継続して吹くと苦潮が発生する可能性があります。注意が必要です。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	27.8~29.0	26.3~30.9
底層	24.3~26.1	31.3~33.1

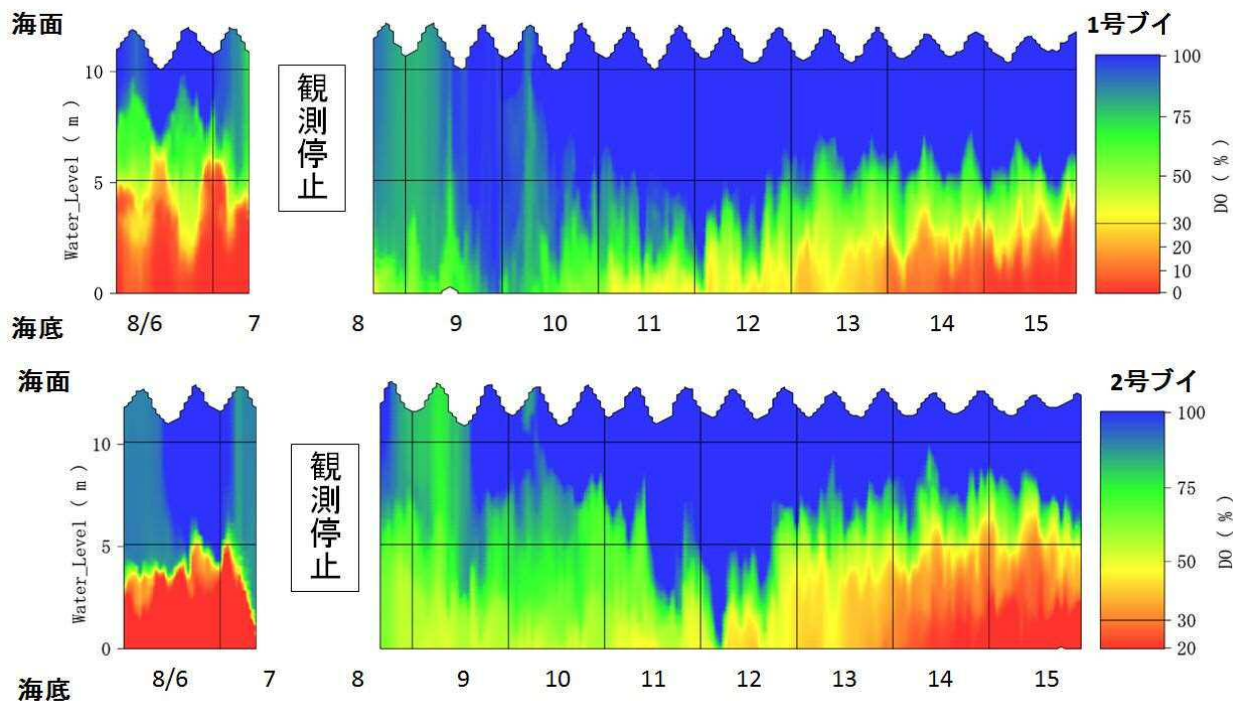


図2 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(上段:自動観測1号ブイ、下段:2号ブイ)

参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

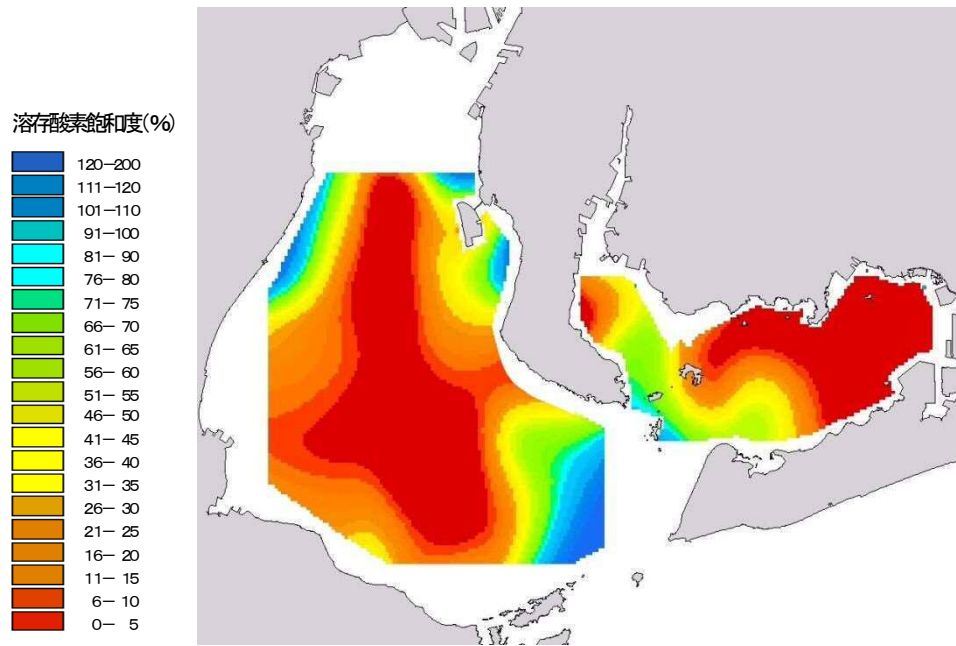


図3 平成29年8月1、2、3日(伊勢湾)、8月2、3日(三河湾)